

コロナ禍での市民の暮らしを守れ



市独自のPCR検査の実施

米原市民報

日本共産党米原市議員
山脇正孝 Tel.52-1093
日本共産党湖北地区議員団
事務局 藤田正雄 Tel.55-1527

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

本号は、9月7日の米原市第3回定例会での山脇議員の一般質問(1)を掲載します。

生理の貧困の克服を

新型コロナウイルス禍で世帯の収入が減少し、生理用品を購入することができなかったり、親のネグレクトにより、買ってもらえなかったりする児童生徒が増えています。このような生理用品の入手が困難になる「生理の貧困」が社会問題となつています。まさに、子どもの貧困は、新型コロナウイルス禍によって、「生理の貧困」となつて顕在化しています。早急に経済的理由などによって、健康で人間らしい生活がおびやかされる状況をなくしていくことが求められます。

防災備品の利活用を

Q、更新時期を迎えている防災備蓄品の利活用を行い、生活困窮者への提供や困っている児童生徒などに届くよう、取り組みを進めていくことが必要だが、どうか。
A、長引くコロナ禍で、日常生活に大きな影響を受けておられる市民の方に、市では、さまざまな相談窓口を用意し、その相談の内容に応じた、市民のくらし緊急対策の一環として、現在、市が災害用として備蓄している物資を活用し、不織布マスクや紙おむつなどのほか、生理用品につきましても提供しているところがあります。また、学校の児童生徒につきましても、今後、学校と連携しながら、備蓄している生理用品の利活用も進めてまいりたいと考えています。

Q、本市でも、人目を気にせず手に入れることができず、学校のトイレの個室、小中学校では高学年の女子トイレに生理用品を置くことを

進めるべきだが、どうか。

A、現在、学校現場では、トイレの個室に生理用品を置くことについて、適切な設置場所がないことや、衛生面における不安の声があります。特に、コロナ禍で、不特定多数の児童生徒が触れる可能性があることについて心配しています。一方、従来から小学校では、女子児童を対象に月経について指導し、学校で生理用品が急に必要になった場合は保健室に常備していることを周知しています。中学校においても、同様に対応しているところもあります。従いまして、トイレへの生理用品の設置については、現在の対応を継続しながら、学校現場とよりよい対応を検討していきたいと思えます。

Qもし、新型コロナウイルス管理などが問題だったら、小中学校に1校ずつぐらい試行的に、女子トイレに生理用品を配備してはどうか。
A、学校の一部のトイレやそとと持っていけるほかの場所に置くことも考えています。

子ども達に寄り添った対応を

Q、生理の貧困にかかわって、相談や必要な支援が受けられる情報発信を、各校で適切に行い、児童生徒に周知すべきだが、どうか。
A、思春期の子どもたちにはデリケートな問題であり、家族に悩みを打ち明けたり、相談したりできないことも考えられます。従って、児童生徒個々の家庭環境に配

慮しながら、個別に声掛けを行い、困ったときにはどうすればよいかなどを伝えていきたいと考えています。学校においては、日頃から子どもへの気持ちに寄り添い、信頼関係を築いていくことは大切なことであり、生理の貧困を含めて、子どもがどんなことでも気軽に相談できる体制を充実させていきたいと思えます。

PCR検査体制を整える

米原市は市内医療機関でPCR検査(行政検査)が実施できる体制を整えるため、検査できるスペースの確保、検査機器等を購入する予算を専決処分を行いました。日本共産党はPCR検査の充実を求めてきました。

- ・ PCR検査体制(行政検査)の整備【補正予算1千万円】
- ・ 消耗品費(検査キット) 100万円
- ・ 検査所設置工事 500万円
- ・ 医療用備品(検査機器) 400万円

○PCR検査(市独自検査)【297万円】

市の所管施設で新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生し、かつ、保健所において濃厚接触者の特定が困難でPCR検査が実施できず、一律の自宅待機の要請があった場合に、委託により市独自で関係者のPCR検査を行う体制を構築する予算です。

雑感

高校3年生の子どもさんをお持ちの保護者の方から相談がありました。ワクチンの予約もなかなか進まない。これから受験勉強をしなければならぬのにコロナの不安で落ち着いて勉強ができない。一生を左右することなのに。なんとかワクチンの優先接種は出来ないかとのこと。中学3年生も同じです。子ども達の不安を解消するために検討ください。